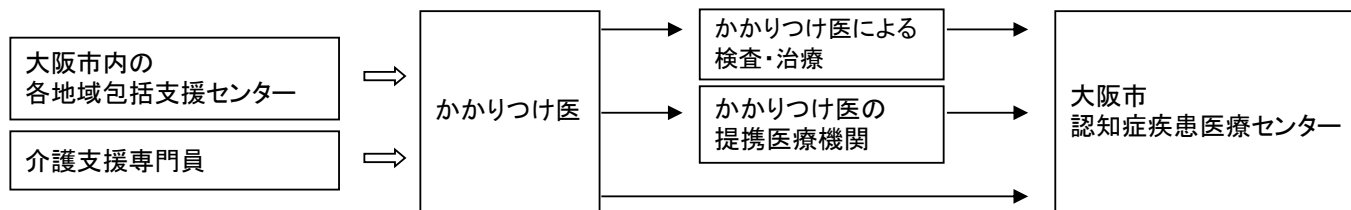


☆ 目的

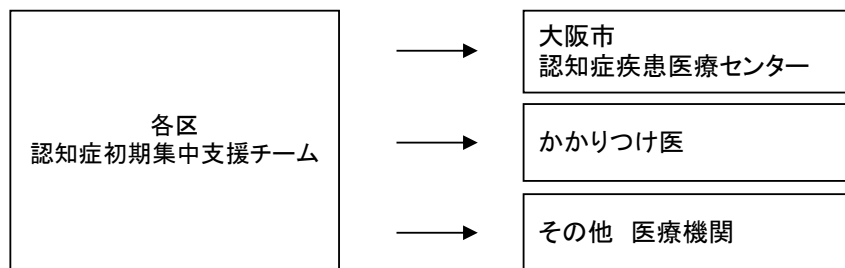
1. 地域包括支援センターや介護支援専門員が、かかりつけ医に、認知症に関する相談を行う際に活用する。
また、認知症疾患医療センターへの受診をスムーズにする。

認知症に関する相談をかかりつけ医に行う際、かかりつけ医への円滑な情報提供と依頼を行い、スムーズな連携を図るため。また、新規ケース等の鑑別診断・治療等の依頼について、認知症疾患医療センターへの円滑な情報提供と依頼を行い、スムーズな連携を図るため。



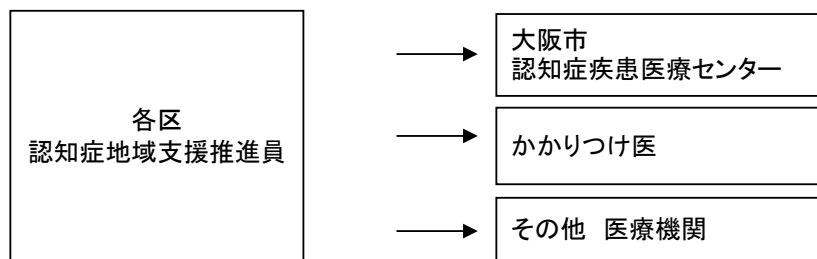
2. 認知症初期集中支援チームが医療機関へつなぐ際に活用する。

訪問支援対象者が受診する医療機関へ情報提供と依頼を行い、スムーズな連携を図るため。



3. 認知症地域支援推進員が若年性認知症等支援困難症例の支援に活用する。

若年性認知症等支援困難症例に対する支援について、各区認知症地域支援推進員が地域包括支援センター等関係機関と連携を図り、認知症疾患医療センター等医療機関への円滑な情報提供と依頼を行い、スムーズな連携を図るため。



☆ 認知症連携シート記載のポイント

- ① 本シートは、担当医が診断・判断をする上で、必要な情報がまとめられるようになっています。「受診目的」、「認知症の経過や症状」等、支援者が面談時までには確かな情報収集を行うことで、受診時の問診等、時間の短縮を図ることができます。
- ② 本シートは、医療面・生活面・社会面の情報が記載できるようになっています。ケースの支援状況により、記載できない場合は、今後、聞き取りが必要な項目としてご確認ください。
- ③ 本シートの「自由記載欄」については、その他診療に必要な情報を簡潔にまとめて記載をするようにしてください。

☆ 受診のポイント

1. かかりつけ医より認知症疾患医療センターや他の医療機関の紹介を受けた場合

- かかりつけ医から処方された薬、検査結果等は、まとめて持参してください。
- かかりつけ医からの紹介先医療機関を受診後は、診療結果をかかりつけ医宛てに記載していただくようにしてください。

2. 通常の診療以外の相談をする場合

- 担当医の予定や他のクライアントの状況により、日程調整が必要な場合があるので、突然受診や訪問をするのではなく、あらかじめ受付等に相談するようにしてください。
- 診断書等の記載の必要な場合には、担当医にまず相談してから持参するようにしてください。

3. 受診時の付き添い

- 本人と家族が別々に担当医の説明を聴くことができるように、できるだけ付き添いは複数の方がよいでしょう(家族の同席がない場合には、事前に情報を整理しておきましょう)。
- 本人が診察時間まで待てないと予想される場合も、付き添いがあるとよいでしょう。
- 専門職の付き添いがない場合は、事前に相談内容をまとめて伝えておくか、書面にして家族に持参してもらうほうがよいでしょう。
- 本人の日頃の様子わかる家族や援助者に付き添ってもらいましょう。
- 付き添うことで、その後の病院や診療所との連絡が取りやすくなります。初診日は、長時間の診療が予想されます。時間の余裕をもって行動しましょう。